☎026-236-3143 Mkurashi@shinmai.co.jp

もっと広く認められていい

殖医療を手掛ける岡山大病院リプロダクションセンタ 療についての意識調査などを行う。産婦人科医で、生大大学院保健学研究科教授。専門は生殖医学。生殖医大大学院保健学研究科教授。専門は生殖医学。生殖医大学院保健学研究科教授。専門は生殖医学の主義の関係であ 長。同大大学院医学研究科修了。著書に「個『性』

> 語る岡山大大学院の中塚幹也 って大きな選択肢になる」と「精子提供者としては親族だ



0 10 20 30 40 50 60 70 80

生まれつき精子がない場合

よいと考えるケース精子提供を受けても がんの治療で 精子がなくなった場合 ランスジェンダー(出生時の性と 自認する性が異なる人)の場合

レズビアンカップルの場合

国内病院の精子不足 日本では生殖補助医療で使う精子は「匿名の 第三者」からの提供に頼ってきた。近年、生まれてきた人が増える につれて、子どもたち側から「出自を知る権利」を求める声が出てきた。 匿名を条件に提供していた男性側は、子どもがいつか自分を訪ねてくるか もしれないなどと懸念。提供者が激減した。治療を行っていた国内の主要 病院は、新規患者夫婦の受け入れを中止している。

親でも、 いとだめなんですね。それでもそうし できる体制が整っている医療機関でな けでなくて精子や卵子などが冷凍保存 理想だと思います。実際には、治療だ 殖補助医療を受けることができるのが も、多くの人がどこの医療機関でも生 した医療機関が治療の受け皿になって た施設は全国に600ほどある。こう そしてどういったケースであって

んな立場の人だっていいと思います。 が守れる態勢が担保されていれば、 しては、安全性や子どもの立場、権利 精子提供者について言えば私個人と きょうだいでも、匿名の第三

られているからなんですね。

生まれつき精子がない場合や、がんの た。結論的に言うと、上位にきたのは 4人にアンケートで意識調査をしまし 提供を受けてもいいと思いますか。 数年前に、日本に住む一般市民91

皆さんは、どんな事情だったら精子

中で精子提供についての相談というの で不妊治療の医師もしています。その で認められていいと思っています。 からすると、現実にはもっと広い範囲 私は研究者でありますが、大学病院 ですが、調査から分かる世間の反応

できない。 て」とか「ここなら希望に応えてくれ 元に帰って理解ある病院を探してみ を理解して個別対応してくれる病院が るかも」といった情報提供や助言しか 公表していないだけで、悩みや事情

岡山大大学院教授(生殖医学)・産婦人科医

ありますから、そこを頼ってと。それ

たアンケート調査を基に作成。 岡山大大学院が2019年に行っ

対象は9-4人、複数回答

幹也さん

で提供者を見つけてトライするのって どうですか」と聞いてきます。実際に

の所では、ここ1、2年で何組かのう ち1組は「SNS(会員制交流サイト) 望に応えられていない。 とする動きが顕著になっています。私 人たちが出ている。 そのため、個人で精子を調達しよう 最近では仕方なく「宛名なし」で紹

結構、日本人が来ていました。診療の る病院に現地視察で行ったんですが、 後を絶ちません。 い、と助言しますが、こうした相談は ますが、台湾では法で精子提供が認め 姿が似ているという事情もあると思い 中で提供を受けるんです。日本人と容 から他の手があるならやめた方がい そして海外渡航。数年前に台湾のあ

トライした人も来ます。 私自身は、それは危ないこともある

連載への感想、意見などを募集しています。 〒380-8546 長野市南県町657 信濃毎日新聞社文化部「親子 の新たな物語」係(ファクス026・236・3194、メール



本連載「親子の新たな物語 精子提供と 家族のかたち」の過去記事は、ニュースサ イト「信濃毎日新聞デジタル」でも読むこ とができます。

精子提供 家族のかた

20

の感覚と私の感覚は一緒でした。 もに半数を超えてくるんですね。世間 ぐ水準で性的少数者の人たちへの支持 持で7、8割とかなり高く、それに次 も6割超と高かったです=グラフ。と 治療で精子がなくなった 人たちへの支

なくなった人のみに提供している状況 多くの医療機関がこれまでの慣例か 決めた法的ルールがありません。ただ、 今の日本では誰に提供していいかを 生まれつきや病気によって精子が

す。しかし、それができるのは先ほど 病院ではできないので、相談を受けた られます。 も申しましたが、病気絡みの場合に限 後に実施医療機関に紹介状を書きま 提供精子による治療自体は私のいる

それ以外のケースでは、相談者に「地

うことがある状況です。つまり、もと もと医療機関ルートで精子提供を受け に、その一部の人たちへの提供さえも られる人たちは限られているところ 介状を書いて相談者自身で探してもら ままならなくなっている状況です。希

す。これには、ほとほと困っています。 足の状況=メモ参照=が生まれていま てもらったんですが、

それがなかなか とない。今までは紹介状を持って行っ つに、日本国内の医療機関では精子不 実施する医療機関側に精子がほとん

こうした状況に追い打ちをかけるよ

第4部 専門家に聞く (5)

は年に10組ほどあります。

昔からよくあるのが、自分には精子

う人たち。それと性的少数者で子ども がないから兄の精子をもらいたいとい 供を試してみたいと考えている人もい ます。立場や事情、思いもさまざまで 養子を育てていて、もう一人は精子提 が欲しいと考えている人たち。他にも、

ら治療できたのに今はできないという てきたんです。つまり、かつてだった できなくなった。断られるケースが出

kurashi@shinmai.co.jp)

いくことに期待しています。